

第2回富山市総合計画審議会 概要

場所：富山市役所 8階大会議室

日時：2016年3月22日（火）15:00～

1 開会

2 第2次富山市総合計画基本構想（案）諮問

3 市長あいさつ

4 会長あいさつ

5 議事

（1）第2次富山市総合計画基本構想（案）について

（2）第2次富山市総合計画策定末スケジュールについて

（3）意見交換

（委員） 市民が参加しないと達成できない計画である。もう少し市民の参加を促す仕組みや市民としての責任を感じさせる方法を出した方が良い。コミュニティを維持していくためには、市民が責任感を持たなければならない。

（委員） 農業経済について。農林水産業、中山間地域の内容は総合計画の中で詰めていかなければいけない。強い農林水産業とは何か（定義）を考えてもらいたい。

一方で産業・商業とは言っているが、「食」の観点で構想の中では見えづらい。富山市で食をどう進行するのかが分からない。食は観光とつながるため、これから観光面も強めていくのであれば「食」も強い軸になる。検討する必要がある。

（委員） 少子高齢化対策というどうしても高齢化の方に目が向いてしまうが、少子化対策をもう少し具体的にわかりやすくしてもらいたい。

（委員） 各領域の関連性を重視する必要がある。私は救命医で、高齢者医療・地域医療はそれぞれの部分を総合的に考えないと成立しないと思う。コンパクトシティでは、まちなか居住の中で救急や医療をどうするのか等、全体の関係性を詰めていくことが重要である。

（委員） 中山間地域ははっきり明記されている。事務局からP.23「いきいきと働けるまちづくり」に対する具体的なイメージを教えてください。

- (事務局) 「いきいきと働けるまちづくり」は重要な計画であり、今は基本構想の段階なので具体案はないが、基本計画を作成していくにあたって、それぞれの分野から具体的な事業イメージや方向性を提案してもらおう。その際に意見をもらいたい。
- (委員) 産業構造をどうするのか、新しい産業を導入するのも計画の中に含まれていくと思う。自分も協力していきたい。
- (委員) 2点ある。
1) p. 12の主要課題とそれに対応するp. 16の基本構想：それぞれの課題に対しての連携の目安みたいなものがあれば市民もそれに基づいて動けるのではないか。
2) PPPのプラットフォームづくり：場面ごとではなくて、市民や民間の活力を上手に利用できるような土台や仕組みをつくる必要がある。
- (委員) 新幹線効果もあり、富山市に対する市民の気持ちが変わった。富山以外の方が、富山がこんなに良い、こんなに素晴らしいと言ってくれるから自分(市民)たちも富山市を知らないといけない、という意識が芽生えた。
「いきいきと働けるまちづくり」の、「施策(3) 二地域居住・移住の支援」が分かりづらい。県外からきて、市内で2つ家を持つことができるという意味なのか。どこかでひずみができるのではないだろうか。
- (委員) [p. 8及びp. 12]現状を否定的に捉えているように見える。もう少しわかりやすくしてほしい。
- (委員) 合併して10年、コンパクトな街づくりが進められた。市の周辺部の人たちは全部が中心部に吸収されていくのではないかと心配していた。そういう意味では、コンパクトなまちづくりの中心となるのは「団子と串」のまちづくりであり、このことをもっと住民の方に理解してもらいたい。
- (事務局) 同意見。交通機関を利用しても30分以上待ち続けるのではなく、せめて15分以内に次の場所に移動できる二次交通との整合性を考えていきたい。中心市街地は良いが、串の先に団子がないという現状にならないためにも。
- (委員) 超高齢化の集落、限界集落を心配している。中山間地域の振興の中にも、高齢化している集落のことも考慮してほしい。
- (委員) 「二地域居住・移住の支援」…中山間地域と街中との関係があっても良い。中山間地域では空き家が多い。中心部に住んでいる人々も週末だけ中山間地域に戻って自分のルーツを意識するなど今後の居住の仕方になるのではないか。

- (委員) 産業の出荷数からすると富山市は日本海で最も高い。経済的には強いという数値である。企業の方は、わずかな時間で市内の観光地に行こうとは思わない。もう少しそこを改善できないのだろうか。
- (委員) 中山間地の振興をもう少し深めてほしい。また、観光についても強化策が必要。宿泊は富山県外にとられている（石川県も同じ状況）。
- (委員) 「串」の中に電車が入っていないから、バスが主な移動手段になる。バスが一時間に1本とさみしい状況になっている。
富山市の面積の70%は中山間地域であり、環境の変化などで山の人がいなくなったら何もなくなる。
- (委員) 「富山らしさ」を目に見えるような形で出していかないと伝わらない。市民参加が重要となる。
- (委員) 1) 少子化と高齢化の前に言うことがあるのではないかと。少子化では、結婚しないと子供はできないが、中山間地域では結婚しない人がほとんどである（人がこないから）。人々を結婚させるような取組を増やすべき。
2) 空き家は、3、4年放置すると住めなくなる。空き家に住みたいという話は聞くが、実際屋根もボロボロで、水道が通っていないところもある。
- (委員) 富山市の人口は下がっている。ここ2年は、転入よりも転出の方が多い。それらを考えるとまずは結婚して子供を産んでもらわないと解決しない。いつでも子供を産めると思いがちであるが、そうではないため教育しなければならない。現在、富山市は若いお母さんに対して様々なサポートがあり、とても良い。
- (委員) PTAとしてではなく個人的な意見になる。富山市の子供のサポートの中で地域医療、子供会医療等があげられる。その中でも、子供会の児童員として働いて10年目になる。当時は子供会に新1年生の3割程度がくるのが普通だったが、今では1、2年生合わせて4割、5割は確実に減っている。しかし、預けたいといっている親は多い。子供会は民間の有料のものではなく、富山市がお金をだしている。
昔の状況とは異なり、子供会の利用を希望される家庭の大半がシングルである。アパート住まいであったり、違う場所から引っ越して来たり、[子供を見てもらえる人がいないため、子供会に入れてもらいたいという人も多い。受け入れにも限界があるが、地域からサポートを受けるだけでなく、若い世代も地域に貢献していかなければならない。
- (委員) 同感。私も県のボランティア団体の会長をやっているのだが、せめてそういうことで頑張

っている人には表彰を増やしたらどうか。

(委員) 公民館というのは自治体や他団体との連携を取らなければならない。その中でも、若い世代、特にお母さんたちには児童クラブという組織をつくっている。また、他の団体もスポーツ種目別の大会等に参加している。このような公民館を主導している若い世代や団体の意見交換の場を提供することも考えないといけない。

(委員) 安全な街づくりとは災害・防災のことと思う人が多いが、防犯も重要である。全国的にみても富山県は犯罪率が少ない方だが、富山市だけでみると高い。

富山市の街路は戦災で焼けてしまい、非常に縦横がしっかりしており見通しが良い。新幹線も完成して、ホテルも増え、海外からの観光客もこれから増えると思う。是非、富山にきたら安心感を与えたい。

(委員) p. 17 基本目標の「(1)すべての人が輝き安心して暮らせるまち」の中で、「子供たちへの教育の充実を図るとともに…」を入れていてありがたいと思った。日本の子供たちの情報リテラシー能力が低い。今子供たちに求められる能力は、数多くある情報の中で自分たちが選択して、それらを比較検討し、自分の意見を言えることである。「子供たちの教育の充実を図るとともに」よりは、「さらなる充実を図る」と強調した表現に変えてもらいたい。

p. 20 施策の大綱の施策1の文章内にも現代の子供の教育として「情報リテラシーをはぐくむこと」を入れてもらいたい。

(委員) 市民意識調査をした結果、若い人が地域に愛着がない、地域に魅力がないという回答が返ってきた。若い人にはインパクトを感じさせるような何かが必要。

「串と団子」といえども、団子の中身はわからない。インパクトにつながらない。若い人は刺激になる取組がほしい。

(委員) 街の中心部は変わってきているが、中山間地も大事である。結婚に関しては、中山間地域ばかりじゃなくて都市部でも独身族が多いため問題は複雑である。

(委員) 高齢化が進む中で、高齢者1人1日人が前向きになって、まだまだ活躍できると思うことが大事である。少子化については、富山に住みたい、子供を育てるという親の意思も必要である。安心・安全を重視した計画も必要である。

(委員) 富山県は災害が少ないことが有名である。回復力がある街づくりを押ししていく必要があるが、地域住民が意識を高くもたないと回復は実現しない。

私は富山市の防災対策課の方から依頼を受け、防災地域の復旧、自主防災活動等を行ってきたが、市民も「緊急時は市役所が何かしてくれるであろう」というスタンスが多かった。富山県は地震が少なく、市民の意識も低い。防災面を高めるためにも地域のコミュ

ニティを良くしていかないといけない。P.8の富山市の現状にも、「地域のつながりの希薄化や地域の活動の参加率の低下」と書いてあり、同感する。

(委員) 観光と街づくりも非常に関係してくる。新幹線も開通し、コンパクトシティはこれからも進めてほしい。ただ、個人的に思ったのは新幹線だと富山よりも金沢の方が観光地としての条件がそろっている。富山も金沢と比較することによって課題も見えてくる。

(委員) 将来も住みやすい富山になることを期待している。
一番の問題は高齢者問題。女性の場合は、寝たきり 2、3 年と言われているが、この問題を解決することが重要である。寝たきりにならない元気な高齢者と若者が一緒にお手伝いをするのが大切だと思う。

6 その他

(事務局) 次回は答申案の審議：5月18日の午前中。

7 閉会

以上